＜2022 年(令和 4 年)7 月 15 日発行　第 191 号＞

ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/fukurou/

初夏まつり（6月26日）

初夏祭りを6月26日（日）に昨年に引き続き今年も入居者と職員のみで開催となりました。

今年の屋台内容は、ねぎとろ丼、チキンナゲット、お好み焼き、フランクフルト、シュークリーム、アイス。ゲームは、輪投げと魚釣りでした。

中でもねぎとろ丼が好評で、飛ぶように売れていました。なかなか生ものを食事の際にだすことが少ないので、とても喜ばれていました。

室内でゲームをしたことで、去年より沢山の方に釣りゲームを楽しんでもらいました。丁寧に案内してくれたことも功を奏したようです。

来年こそは、コロナが収束し友人・知人とご家族様にも参加いただき、一緒に楽しめることを願っています。

神戸長田ふくろうの杜など神戸事業にとって大切な存在の「神戸ろうあ協会」が7月18日に創立100周年の記念大会を松方ホールで開催します。その歴史の中でしっかりと記憶にとどめたいこと、それは草創期からろうあ協会の優れたリーダーであった聞こえない教員3人が退職に追いやられた事実です。昭和4年強化される軍国主義の下での教育現場からの手話追放の暴挙でした。

備蓄食訓練（6月16日実施）

毎年、備蓄食訓練を実施しています。今年は災害等で調理職員が出勤できない想定で行いました。

献立は赤飯と根菜汁でした。赤飯はお湯を注ぎ、根菜汁は温めるだけで提供することができます。味は好評でした。緊急事態の際には現場は混乱していると思うので、職員同士が連携を取りながらスムーズに対応できるよう努めていきたいと思います。

▶温まった赤飯を盛り付け

ランチはお寿司♪

◀久しぶりのお寿司に頬が綻びます

ふくろう自治会からの要望で、６月２０日（月）はお寿司を注文しました。入居者さんは大喜びです。デザートのプリンもぺろりとたいらげてみんなご満悦でした。

年に数回あるといいなとの声が聞こえてきました。乞うご期待。

♫ 瀬戸の花婿と花嫁 ♫

他のユニットの方と食事を楽しむ機会が少ないので、今日は一緒におしゃべりを楽しみ交流を深めることができました。

舞台発表では、密を避けるため今年も2部制で開催しました。手を叩きポーズを決めたら、参加者全員でそのまねを行います。順番に入居者にポーズをお願いしました。決めポーズをする人、恥ずかしがる人、どうしたらいいのかわからず不安な表情の人、反応は様々です。

普段とは違う雰囲気にいつもより食欲が湧き、ねぎトロ丼をおかわりされる入居者さんもいました。輪投げ・魚釣りのゲームコーナーでは童心に帰ったように無邪気に楽しむ姿が見られました。

ひとり一人にとって特別な一日を過ごすことができたと思います。

（生活援助係　酒井裕子）

ふくろう物語　中瀬　進　様

中瀬進様は昭和13年11月28日生まれの84歳。生まれも育ちも洲本市安乎町です。昭和37年24歳で結婚され、子供を3人（一男二女）授かりました。

中瀬様から話をうかがうことは難しいため、奥様より話をお聞きしました。

「左官として大活躍！」

中瀬様は左官として、大阪や神戸でお仕事をされていました。

明石海峡大橋がなかった時は、一度島外へ仕事に出ると泊まりがけで、なかなか自宅に帰って来ることが出来なかったそうです。そのため、殆ど家族と一緒に生活することが出来ず、旅行などにも行けなかった程、忙しかったようです。

▶笑顔が素敵な中瀬さん

「体調を崩す」

40代後半頃に、体調を崩し、昭和58年から入院生活が始まりました。入院中の平成7年に阪神・淡路大震災で自宅が全壊し大変だったとの事です。平成16年に退院し、奥様が仕事を辞めて、家で介護しながらデイケアを利用されていました。

「ふくろうの郷での生活」

令和3年9月から淡路ふくろうの郷に入居されました。現在、海ユニット居室ではテレビを見ながら過ごされています。施設の行事も積極的に参加され、昨年のクリスマス会では、かわいい被り物を被り、音楽を聞きながら腕を動かされました。

「笑顔が一番！」

訪室時にはドアの開閉音で職員の方を見て、笑顔を見せてくださり、その様子を撮って中瀬様のご家族に手紙を送ると、家族から「淡路ふくろうの郷へ入居してから、元気そうに暮らしている様子を毎月の便り（写真付き）から伝わり安心しています。今までで一番いい笑顔をしている。」と連絡をいただきました。

今後も本人はもとよりご家族様の声を励みに働き甲斐に繋がるケアの質を向上させていきたいと思います。

（生活援助係　山本唯雄）

▲風船投げを楽しむ中瀬さん

「きょうだい」から「障害」を考える

6月10日(金)、藤木和子さんと松森果林さんのトークイベントをオンラインで視聴しました。

藤木さんは聞こえない弟と育った弁護士、手話通訳士であり、自身の「聞こえる姉」として弟を支えなければいけないという周囲からの過度な期待を受け苦しんだ経験や障害者とともに歩む兄弟姉妹の会を知り同じ苦労を知る方々と共有することで救われたお話をされました。

松森さんは、責任感の強いお姉さんでしたが中途失聴したことで出来ないことが増え自己像が揺らいだことや障害を理由に専門学校入学を断られ絶望したが両親が寄り添ってくれた話、「障害」があるのは社会の方だと知り、ユニバーサルデザインの道を志すようになった話をされました。

お二人のお話を通して、健常者であっても障害に起因した悩みを抱えうることからも、課題（障害）があるのは障害者ではなく社会の方であると改めて感じました。そしてその課題に押しつぶされそうになった時に支えてくれるのが、他でもない家族や同じ悩みを抱える仲間であると。

現在、まなびあい文庫編集委員会では、テーマを「障害者と家族」として次の文庫⑧を鋭意制作中です。今回のイベントで得たものも糧にして進めて参ります。

（まなびあい文庫編集委員　川満和則）

小学生、町探検学習でふくろうの郷へ

６月２日（木）中川原小学校２年生の児童 13 名が先生に引率されて、ふくろうの郷へ来られました。事前に一人ずつ考えてきた質問を順番に尋ねられ、「どんな人が住んでるの？」「どんなことをしているの？」といった素朴な疑問に、入居者が答えてふくろうの郷での暮らしを伝えました。

昨年同様、今年もガラス越しでの交流となりましたが、また、以前のような対面での交流をと吉見副自治会長より再会を約束しました。

★既刊①～⑦も普及中

7月・8月 ふくろうの暮らし

7/19(火)　ふくろう大学絵手紙講座
7/20(水)　ふくろう喫茶
7/21(木)　ふくろう大学料理講座
7/27(水)　ふくろう大学書道講座
7/28(木)　回想法
8/ 1(月)　ふくろう理髪店
8/ 2(火)　ふくろう大学演劇講座
8/ 3(水)　誕生会
8/10(水)手話講座
8/11(木)すいか割り

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

令和４年度 第1回社会生活教室「フレイル予防について」

5月28日（土）今年度1回目の社会生活教室を洲本市中央公民館で開催しました。午前中はふくろうの郷看護師の渋谷裕子氏に「フレイル予防について」というテーマでお話いただきました。

誤嚥を防ぐための顔や口の体操、寝たきり予防のための足腰を強くする体操を行いました。実際に体を動かしてみることで最初は「フレイル」って何？と意味が分からなかった参加者も「フレイルとは体が弱り介護が必要になる前のこと。それを防ぐために毎日の食事、体を動かすこと、外に出かけるなどの積み重ねが大切なんだね」とよく理解できたようです。

午後は午前中の講義の感想を参加者それぞれの生活状況を織り交ぜながら話し合ったり、今後の社会生活教室で学びたいことなどについて意見交換しました。

▲学びたいことなどについて活発に意見が飛び交う

■社会生活教室はフレイル予防の役目も

3年ぶりとなる昼食をはさんでのゆったりとした今回の教室では、休憩時にもあちこちで会話が弾み連絡先を交換する姿なども見られました。また午後には一人一人活発な意見交換がみられました。久しぶりに参加された打越護さんも、交流できとても楽しかったと満足げな様子でした。また参加者の皆さんは89歳となる巌末子さんの元気な様子に刺激を受け、見習っていつまでも頑張らねばと心新たにされたようでした。

センターの社会生活教室はフレイル予防の一翼を担っています。

今日の意見を参考に、みなさんが参加したいと思える内容を考えていきます。

（センター長　楠本恵利子）

令和４年度登録手話通訳者・要約筆記者実務者会議開催

６月５日11時40分から実務者会議を開き、登録手話通訳者５名、要約筆記者４名が参加しました。

通訳現場で困ったことや要望などを話し合いました。

「通訳の場で通じなくて困ったことがあり、また悩みなども聞き、報告書に記入したが、センターとしてきちんと対応してもらえているのか」「緊急対応の通訳で初めての経験であり緊張し、戸惑った。」

登録通訳者は日頃の悩みを共有できる場がないという問題を抱えており、センターとしては今後、体験談や通訳現場での困りごとを話し合ったり、研修の機会を設け、通訳内容をお互いに高めあえる場作りを考えていきたいです。

登録手話通訳者研修会開催（6/5）

「聴覚障害児の言語発達とろう教育」というテーマで手話通訳者養成講座と登録手話通訳者研修を開催しました。

講師はあわじ特別支援学校で以前はろう児の教育相談を担当されていた小林知史先生です。

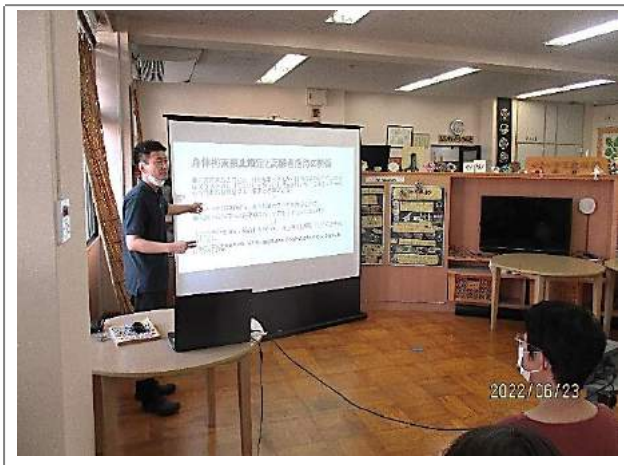
通訳者養成講座受講者からは「言語は人が生きている上で大変大切なことが分かった」「聞こえない子供が言葉を獲得することの困難さ、そのためには音声よりも手話による概念や言語の獲得の方がスムーズで、早い段階から手話の必要性が理解できた」「聞こえにくい、聞こえない方と向き合う時に、その時代のろう教育の背景を想像できると思う」「手話を学ぶ者としてこのような問題があることを念頭に入れて学んでいきたい」など感想がありました。

中川原高齢者・障がい者地域
ふれあいセンター

〒 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
ＴＥＬ　0799-28-0990
ＦＡＸ　0799-28-0992

ふれあいセンター研修会
「身体拘束・虐待について」

6月23日（木）午後5時30分、ふれあいセンター全職員を対象に「身体拘束・虐待について」をテーマに内部研修会を開催し、21名の参加がありました。



普段何気なく発言している言葉遣いや表情等によっては「スピーチロック」と言って拘束につながってしまう、また我々が良かれと思ってしていることも第三者から見れば虐待と捉えられる恐れがあることについて皆で学び合いました。

利用者の尊厳、人権を尊重した支援を続けるためにも今後も定期的に開催したいと思います。

（ふれあいセンター　濱田）

自然災害（地震）避難訓練を実施しました

（中川原地域ふれあいセンター）

６月２８日（火）午後２時から、おのころの家とデイサービス利用者・職員４２名で避難訓練を実施しました。

地震発生を想定し、安全ヘルメットを被り、洲本給食センター側の駐車場へ避難誘導を行いました。おのころの家利用者が全員集合場所に避難し、デイの利用者の車いす押したり、誘導に協力してもらいながら実施することができました。

事前に優先順位などを職員間で共有しておくことができたので、スムーズに怪我なく避難できました。

（防災担当　橋詰）

令和４年度より、障害者総合支援法による運営基準に以下の内容を盛り込むことが義務付けられます。

- 虐待防止委員会の定期的な開催と委員会での検討結果の従業者への周知徹底
- 従業者への定期的な虐待防止研修の実施
- 虐待の防止等のための責任者の設置
- 身体拘束等の適正化のための対策を検討するための委員会の定期的な開催と委員会での検討結果の従業者への周知徹底
- 身体拘束等の適正化のための指針の整備
- 従業者への定期的な身体拘束等の適正化についての研修の実施【厚労省より引用】

贈答用にも最適！　おのころ屋
クッキー・パウンドケーキ詰め合わせ

クッキー
10 個詰め合わせ
1,350 円（送料別）

クッキー＆パウンドケーキ
5 個&5 個詰め合わせ
1,600 円（送料別）

パウンドケーキ
10 個詰め合わせ
1,850 円（送料別）

クッキー１個 120 円、パウンドケーキ１個 170 円、箱代 150 円
※詰め合わせ内容、個数につきましては、ご要望に応じます
ご要望欄にご記入いただくか、下記連絡先までお問い合わせください。
ご注文後、５営業日以内に発送いたします。また日付の指定も承ります。送料は別途いただきます。
（送料　北海道 1,240 円、東北 840 円、信越・関東 710 円、北陸・東海・近畿・中国 620 円、四国・九州 710 円）
○振込先　郵便振替：記号１４３６０　番号：６４７１１０７１
金融機関：ゆうちょ銀行　店番：４３８　普通預金　口座番号：６４７１１０７
口座名義：おのころ工房（オノコロコウボウ）
お問合せ先：おのころの家　TEL：0799-28-0995　FAX：0799-28-0992

神戸長田ふくろうの杜
兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1
〒653-0836
電話：０７８　７９８　７９４０
FAX：０７８　７９８　７９４１

B型事業所・生活介護 お出かけ行事に行きました

毎月、社会参加を目的にお出かけ行事をしていましたが、コロナ禍で長い間お出かけできませんでした。感染者数も少し減少してきた4月のなかま相談にて、外出先を決め、3グループに分かれて行きました。

5月：王子動物園

一番人気だった王子動物園。5月23日（月）晴天の青空の下、沢山の動物達を見て回りたいと意気込んでましたが、動物園の勾配と夏日もあり段々と体力が奪われていきます。

お昼ご飯はキッチンカーのカレーやホットドッグ、ソフトクリームも食べてお腹いっぱいに。

昼食後は動物見学、遊園地乗り物、休憩の班に別れて行動しましたがあっと言う間に帰る時間になり、楽しかったけど時間が足りなくもっと見たかったなと思いながら動物園を後にしました。

▲高さに足がすくみます

6月：明石海峡大橋

舞子海上プロムナード

神戸ろうあハウスの時から何度も行っている明石海峡大橋ですが、「また行きたい」と7名が手を挙げ、2台の車に分かれて行きました。

朝、車の配車でバタバタしましたが、渋滞もなくスムーズに到着しました。実は事前に職員が下見に来て、入口まで車を寄せれるようにお願いしてくれていたのでスムーズに入場することができました。

平日は空いており、ゆっくりと見学することができました。

海面47ｍの丸木橋から見える明石海峡は迫力満点でしたが、あっという間に渡ってしまう人もいました。

外に出ると、釣りをしている人がたくさんいました。のどかな気分に浸りながら、でも空きっ腹には勝てず、須磨浦公園近くのファミリーレストランで昼食をとり、ゆっくり休んで帰りました。

7月は、リニューアルオープンする「バンドー神戸青少年科学館」のプラネタリウムに行く予定です。みんな「早く行きたい!!」と心待ちにしています。

（B型事業所　支援員　南山邦子）

デザート販売中

ふくろうの杜食堂にて、6月からプリンを販売しています。

なかま(利用者)が毎日愛情込めて手作りしています。

１個１５０円、生クリームやカラメルソース付きです。

ぜひ一度食べにきてください。

季節の便り

（淡路ふくろうの郷）

高知の上村様より茄子とスイカが届きました。また、手話サークル三原の堤夫妻より毎年ブルーベリーの苗木をいただいています。入居者・職員でいただきたいと思います。

いつも変わらぬご支援に感謝申し上げます。

▶食べ頃になるのが待ち遠しいです